

# 2019(平成 31)年度 全国学力・学習状況調査

## 逗子市の結果について

### (1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

### (2) 調査の対象

- 逗子市立小学校第6学年児童 436名
- 逗子市立中学校第3学年生徒 353名



### (3) 調査の内容

#### ①教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

国語、算数・数学、英語はそれぞれ次の(ア)と(イ)を一体的に出題。

- (ア)身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
- (イ)知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」に関する問題を出題

#### ②質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

○本年度の主な調査項目は以下のとおり。

- ・挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等
- ・部活動に関する状況
- ・ICTを活用した学習状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・学習に対する興味・関心や授業の理解度等

### (4) 調査の方式 悉皆調査

### (5) 調査日時 2019年(平成31年)4月18日(木)

(6) 調査結果の分析にあたって留意したこと

本調査の結果から見てとれることとして、次のような点に留意して分析を行った。

- ①実施教科が「国語」「算数・数学」「英語」の3教科であり、学習指導要領のすべてを網羅するものではないことから、児童生徒が身につけるべき学力の特定一部であること。
- ②年度により問題の質が異なるため、経年変化の状況のみから学力の向上・低下の傾向を容易に評価することは難しいこと。

(7) 調査結果(正答率)

(小学校)

教科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国語	63.0 %	61.0 %	63.8 %
算数	68.0 %	67.0 %	66.6 %

(中学校)

教科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国語	74.0 %	73.0 %	72.8 %
数学	59.0 %	59.0 %	59.8 %
英語	59.0 %	59.0 %	56.0 %

# 令和元年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（小学国語）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>○国語においては、本市の平均正答率は、全国平均−0.8ポイント、神奈川県平均に対して+2ポイントと、全体には全国平均をやや下回り、神奈川県平均を上回る結果となっている。</p> <p>●基礎的・基本的な知識は、一定数の児童にほぼ身につけているといえるが、それを活用して、相手の意図を捉えながら聞き、読み、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることや、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くことについて課題が見られる。</p>
<p>話すこと 聞くこと</p>	<p>○話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って自分の理解を確認するための質問から適切なものを選択する問題で全国平均を0.3ポイント、神奈川県平均を3.1ポイント上回っている。【3一】</p> <p>○目的に応じて質問を工夫し、適切なものを選択する問題で全国平均を1.2ポイント、神奈川平均を2.5ポイント上回っている。【3二】</p> <p>●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめて記述することについて課題がある。また無回答率が17.9%となっており、全国の無回答率の平均を上回った。【3三】</p>
<p>書くこと</p>	<p>○図表やグラフなどが用いられた目的を捉え、適切なものを選択する問題で全国平均、神奈川県平均を1.7ポイント上回っている。【1一】</p> <p>○目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて記述する問題で全国平均を1.5ポイント、神奈川県平均を3.4ポイント上回っている。【1三】</p> <p>●情報を相手にわかりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることについて課題がある。【1二】</p>
<p>読むこと</p>	<p>○目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読み、適切なものを選択する問題で全国平均を0.3ポイント、神奈川県平均を3.1ポイント上回っている。【2二】</p> <p>○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか適切なものを選択する問題で全国平均を0.7ポイント、神奈川県平均を0.1ポイント上回っている。【1三】</p> <p>●目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読み、記述することに課題がある。【2一(2)】</p>
<p>伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項</p>	<p>○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題の中で、全国平均を6.1ポイント、神奈川県平均を10.2ポイント上回っている問題があり、他の問題についても全国平均、神奈川県平均と同等もしくは上回っている。【1四(1)ア〜ウ】</p> <p>●文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことに課題がある。【1四(2)】</p>
<p>児童質問紙 国語に関連する質問 問37〜45</p>	<p>○「国語の授業はよくわかりますか」という質問に87.8%の児童が肯定的に回答しており、全国平均、神奈川県平均を上回っている。</p> <p>○「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか」という質問に83.2%の児童が肯定的に回答しており、全国平均、神奈川県平均を上回っている。</p> <p>●「国語の勉強は好きですか」という質問に35.6%の児童が否定的な回答をしている。全国平均、神奈川県平均と同等の値ではあるが、学習の基礎となる意識であるため課題といえる。</p>

# 令和元年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(国語)

基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、それらを活用して、相手の考えを理解し自分の考えを分かりやすく伝える力を高める学習をより一層充実させる必要がある。

単元の取り組みの中に、話す機会や書く機会をバランスよく配置し、子どもたちが自身の考えや思いを表現する学習場면을意図的に確保していくようにしたい。

また、児童が伝えたい事柄を明確にさせ、読む人や聞く人に伝わる表現であるかどうかを判断させたり、修正したりするなど、子どもが主体的に課題を解決していく学習に取り組ませることが大切である。

領域および内容ごとの改善点については、以下に列挙する。

## 【話すこと聞くこと】

相手の意図を捉えながら聞くためには、相手が伝えようとしていることを中心や、ともに考えていこうとすることなど、話の内容を十分に聞き取ることが大切である。また、相手と自分の意見を比べて考えを述べるためには、自身の考えと共通する部分、相違点などを、具体的に明示しながらまとめて話すことができるように指導することが大切である。特に、討論の形式などのような話し合いの場面では、話し手は話題について十分に調べ、自分の考えを形成しているのに対し、聞き手の準備が不十分であることが見受けられる場合もある。学習の場面では、話し手と聞き手が共に自分の考えをもって話し合いに臨むことができるような指導が重要となる。

## 【書くこと】

自分で調査をしたことをまとめ、報告する文章を書く場合には、報告する目的を明らかにし、調査の内容や方法、調査の結果とそこから考えたことを明確にして書く必要がある。またその際調査の結果などの事実の記述は図表やグラフを用いる方がわかりやすい場合があることも理解していく必要がある。

単元の中では、書こうとしている内容に応じた項目立てを行い、その項目に沿って子どもたちが取り組んできたことをまとめるような活動が必要となってくる。自分の考えを伝えるために、資料を読んだり、実際に現地に足を運んだりして調べた事実を図表やグラフを用いて整理していく活動に取り組ませたい。目的や意図に応じて図表やグラフを適切に用いたり、自分の考えとその理由を明確にしたりして書くことが求められる。

## 【読むこと】

楽しむため、調べるためなど、読むことの目的は様々である。目的に応じて、本や文章を読み重ねたり、読み比べたりするなど、効果的な方法を選択して読むことは重要である。生活の身近な事柄について、疑問に思ったことを調べ紹介し合うために読む場面では、そのための本や文章を適切に選び、内容を的確に捉えて読むことが求められている。文章の内容を的確に押さえ要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、書かれていることに対して自分の考えを明確にしたり、比べたりしながら読むことができるよう指導していく必要がある。

## 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

主語と述語は、文の骨格をなすものであり、明確な文を書く上で最も基礎となるものである。主語と述語との照応関係が大切であることについて、文章を読んだり表現したりする時に意識できるように指導する必要がある。高学年は、敬語の役割や必要性を自覚してくる時期であるため、相手や場面に応じて適切な敬語を使うことに慣れるようにすることが重要である。日常生活の具体的な場面と関連させ、いつ、どのようなときに誰に対してどのような敬語を使うことが適切であるかを考えるなど、児童が自覚的に敬語を使用することができるような指導が大切である。

# 令和元年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（中学国語）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>○国語においては、本市の平均正答率は 74%と全国平均+1.8 ポイント、神奈川県平均に対して+1 ポイントと、全国平均、神奈川県平均を上回る結果となっている。</p> <p>●全体として基礎的・基本的な知識は、一定数の生徒はほぼ身につけているといえる。それを活用して、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることや話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもち、それを書くことについての課題が見られる。</p>
<p>話すこと 聞くこと</p>	<p>○話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する問題で、全国平均を2.5ポイント、神奈川県平均を1.9ポイント上回っている。【2二】</p> <p>○話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まってないこと」について自分の考えをもつ問題で全国平均を3.3ポイント、神奈川県平均を2.3ポイント上回っている。【2三】</p> <p>●話し合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する問題で、全国平均を3.1ポイント、神奈川県平均を2.7ポイント下回っており、話し合いの話題や方向を捉えることについて課題がある。【2一】</p>
<p>書くこと</p>	<p>○広報誌の一部に書いてある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える問題で全国平均を1.8ポイント、神奈川県平均を約2.7ポイント上回っている。【3二】</p> <p>●意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する問題で全国平均を0.7ポイント、神奈川県平均を0.4ポイント下回っており、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することについて課題がある。【3一】</p>
<p>読むこと</p>	<p>○新聞の連載記事のリード文を読み、その文章が果たしている役割について適切なものを選択する問題で全国平均を3ポイント、神奈川県平均を2.3ポイント上回っている。【1一】</p> <p>○新聞の連載記事を読み話題の中心部分を捉え、その要旨について適切なものを選択する問題で全国平均を1.7ポイント、神奈川県平均を1.2ポイント上回っている。【1二】</p> <p>○新聞に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く問題で全国平均を1.7ポイント、神奈川県平均を2.1ポイント上回っている。【1三】</p>
<p>伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項</p>	<p>○語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する問題で、全国平均、神奈川県平均ともに0.9ポイント上回っている。【4】</p> <p>●新聞への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を封筒へ書く問題の正答率が56.1%となっており、封筒の書き方を理解して書くことについて課題がある。【1四】</p>
<p>児童質問紙 国語に関連する質問 37～45</p>	<p>○「国語の勉強は大切だと思いますか」という質問に87.5%の生徒が肯定的に回答している。</p> <p>○「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問に86.1%の生徒が肯定的に回答している。</p> <p>●「国語の勉強は好きですか」という質問に46.1%の生徒が否定的な回答をしている。否定的な回答の割合が全国平均、神奈川県平均を上回っており、学習への動機の基礎となる意識であるため課題といえる。</p>

# 令和元年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(国語)

話すこと・聞くことについては、相手にわかりやすく伝わる表現について理解する力や話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ力が養われている。

読むことに関しては、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ力や文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもつ力が養われている。

書くことについては、書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する力には課題がある。

領域ごとの改善点については、以下に列挙する。

## 【話すこと、聞くこと】

話し合いは情報の交換や意見の調整をとおして新たな価値を創造したり、一定の合意を形成して物事を決めたりすることを目的として行われる。そのため話し合いをする際には、話し合いの話題や方向を捉えて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりしながら、常に自分の考えと比較し、考えをまとめていく必要がある。その際、相手の理解の状況を踏まえ、わかりやすく伝わるように表現を工夫して話すことも大切である。話し合いの話題や方向を捉えたり、話し合いの参加者にわかりやすく伝わる表現について考えさせたりするとともに、提案された内容で未解決の部分に気付かせ、それを解決する具体的な自分の考えを適切に表現させるように指導する必要がある。

## 【書くこと】

意見文を書く際には、自分の考えの根拠を明確にして書く必要がある。また、説得力のある文章にするためには、自分の考えを支える根拠として、複数の事例やデータなどを示すことが大切である。記述にあたっては接続詞の使用や段落構成の工夫などによって、読み手に対してどの部分が根拠でどの部分が意見であるかが明確になるような表現上の工夫をしたり、読み手にわかりやすい説明を加えたりすることも重要である。より分かりやすい文章にするために展開にふさわしい言葉を書き加えさせたり、説得力のある意見文にするために集めた資料を基にして根拠を補って書かせたりするように指導する必要がある。

## 【読むこと】

急速に情報化が進展する社会の中では、目的や意図に応じて様々な情報をより主体的に活用する力を身につける必要がある。そのために新聞や雑誌など様々な媒体に触れたり、文章の種類による叙述の特徴を捉えながら読んだりすることが大切である。また文章の内容や構造を理解して必要な情報を取り出したり多様な情報に触れる中で自分が興味ある話題に出会い、既存の知識や様々な経験と結び付けて自分の考えを広げたりすることも重要である。

文章の構成や展開、表現の仕方について考えさせたり、文章で述べられている内容の要旨を文章の展開に即して捉えさせたりするように指導する必要がある。

## 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

語感を磨き語彙を豊かにし、多様な語句を適切に活用するためには、それぞれの語句が話や文章の中でどのように使用されているか、自分が理解したり表現したりするときどのように用いればよいかについて考えることが大切である。その際、同じ事物や思いを表していても、場面や状況によって表現が異なる場合があることに着目することも重要である。場面や状況に応じた適切な言語の活用方法を考えさせるように指導する必要がある。

# 令和元年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（数学）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>本市の平均正答率は、59%であり、全国、神奈川県の前平均正答率とほぼ同等な結果であった。</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能は、一定の生徒にはほぼ身につけているといえるが、それらを活用しながら思考し、問題解決の方法や理由を数学的に説明する部分に課題が見られる。</p>
<p>(数学) 数と式</p>	<p>○総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することについて、70%以上の生徒ができています。【9（3）】</p> <p>○簡単な連立二元一次方程式を解くことについて、65%以上の生徒ができています。【2】</p> <p>●事柄の成り立つ理由を説明することについて課題がある。【9（2）】</p>
<p>(数学) 図形</p>	<p>○平行移動の意味について、80%以上の生徒が理解できている。【3】</p> <p>○証明の根拠として用いられている三角形の合同条件について、80%以上の生徒が理解できている。【7（1）】</p> <p>●結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することについて課題がある。【7（3）】</p>
<p>(数学) 関数</p>	<p>●反比例の表から、<math>x</math>と<math>y</math>の関係を式で表すことに課題がある。【4】</p> <p>●グラフ上の座標の差を、事象に即して解釈することについて課題がある。【6（1）】</p> <p>●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することについて課題がある。【6（2）】</p>
<p>(数学) 資料の活用</p>	<p>○簡単な場合について、確率を求めることを、約70%の生徒ができています。【5】</p> <p>●資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することについて課題がある。【8（2）】</p> <p>●問題解決をするために、どの代表値を用いるべきか判断することについて課題がある。【8（3）】</p>
<p>生徒質問紙 算数に関する質問 問49～53</p>	<p>○「数学の勉強は好きですか」の問いに約60%の生徒が、「数学の授業の内容はよく分かりますか」の問いに約80%の生徒が、それぞれ肯定的に回答しており、全国及び神奈川県の前平均を上回っている。</p> <p>○「数学の勉強は大切だと思いますか」の問いに80%以上の生徒が、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに約70%の生徒が、それぞれ肯定的に答え、多くの生徒が、数学が社会で有用なものであると感じていることが分かる。</p>

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(数学)

基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、それらを活用して、自分の考えを数学的に説明したり、表現したりする学習をより一層充実させる必要がある。

見いだした事柄や事実を説明できるよう、数量や図形などの考察対象や問題場面について、成り立つと予想される事柄や事実を見いだしたり、それを的確に捉え直し、前提とそれによって説明される結論の両方を数学的に表現できるようにするなど、論理的な思考力や表現力を育てる必要がある。

領域ごとの改善点については、以下に挙げる。

#### 【数と式】

事柄が一般的に成り立つ理由を、筋道を立てて説明できるようにするために、成り立つと予想した事柄について、文字式や言葉を用いて解決するための見通しをもち、その見通しを基に根拠を明らかにして説明する活動を充実させることが大切である。

#### 【図形】

ある結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、それを数学的に説明する活動を充実させることが大切である。その際、成り立つ事柄について、その前提を変えたとき、同じ結論が成り立つかどうかを検討するなどして、同じ結論が成り立つための前提を考えるとといった、統合的・発展的に考えることができるよう指導することが大切である。

#### 【関数】

反比例の表から比例定数や対応の特徴を捉え、 $x$ と $y$ の関係を式で表す活動を重視することが大切である。その際、具体的な事象について反比例の関係を見だし、その関係を表、式、グラフを用いて表現できるよう指導することが大切である。

問題解決において用いたグラフを事象に即して解釈できるようにするために、グラフと関係式を関連付けながら、グラフ上の具体的な座標が表す事柄を読み取る活動などを充実させることが大切である。

様々な問題を数学的に活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実させることが大切である。その際に、問題解決のために表した表、式、グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面を設定し、検討する活動を充実させることが大切である。

#### 【資料の活用】

代表値を求めたりデータの分布の様子を読み取ったりする場面を設定し、その傾向を捉えて、多面的に吟味し、よりよい解決や結論を見いだすことができるように指導することが大切である。

日常生活や社会の事象における問題に対して、目的に応じてデータを収集し、ヒストグラムなどに整理し、そのデータの傾向を読み取り、それに基づいて判断し統計的に問題解決する活動を充実させることが大切である。



# 令和元年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（中学英語）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>「聞くこと」の平均正答率は71%、「読むこと」の平均正答率は59%であり、全国、神奈川県の前年と比較してやや高い結果であった。「書くこと」の平均正答率は、48.5%であり、全国の前年より2.7%高く、神奈川県の前年より0.8%低い結果であった。</p>
<p>聞くこと</p>	<p>○「教室英語を理解して、情報を正確に聞き取る」問題では9割を超える生徒が正答しており、全国および県の前年を上回る結果であった【1（2）】</p> <p>○「日常的な話題について、情報を正確に聞き取る」問題および「まとまりのある英語を聞いて、話の概要や必要な情報を理解する」問題は全国および県の前年を上回る結果であった。【1（3）（4）、2、3】</p> <p>●「語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取る」問題、全国および県の前年を上回る結果であった。【1（1）】</p>
<p>読むこと</p>	<p>○「日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を正確に読み取る」問題は、県、全国前年を上回る結果であった。【5（1）（2）（3）】</p> <p>○「まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解する」問題は、県、全国前年を上回る結果であった。【6】</p> <p>●「まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解する」問題は、県の前年を上回る結果であった。【7】</p> <p>●「書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見を捉える」問題は、全国前年を上回ったが、県の前年を上回る結果であった。【8】</p>
<p>書くこと</p>	<p>○「一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書く」問題は、県と同ポイント、全国前年を上回る結果であった。【9（2）①】</p> <p>○「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く」問題は、県、全国前年を上回る結果であった。【9（3）①】</p> <p>●「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く」問題は、県、全国前年を上回る結果であった。【9（3）②】</p> <p>●「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く」問題に対する無回答率が、県、全国前年よりも約3%高いという結果であった。【10】</p>
<p>生徒質問紙 英語に関連する質問 問 54～69</p>	<p>「1・2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか」という問いに対しては、肯定的な回答が約82%であったことから、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりすることが概ねできていると考えられる。</p> <p>また、「1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか」という問いに対して、否定的な回答をした生徒が、約34%いることから、自分の考えや気持ちを即興で表現する力を高めることが課題であると考えられる。</p>

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと

- ・「聞くこと」について、英語を聞いて情報の詳細を理解する力、まとまりのある英文を聞いて話の概要を理解する力が養われている。
- ・「読むこと」について、日常的な話題について簡単な語句や文で書かれたものの内容を正確に読み取る力、まとまりのある文章を読んで話のあらすじを理解する力が養われている。
- ・「書くこと」について、文の中で適切に接続詞を用いる力や、与えられた英語を適切な形に変えたり不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く力が養われている一方で、与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くといった表現力には課題がある。
- ・領域ごとの改善点については、以下に列挙する。

#### 【聞くこと】

日常的で簡単な事柄について内容そのものを聞き取る力は身につけてきていると考えられる。このように高まってきている力を更に伸ばしていくための留意点を以下に記す。

まず、普段の英語を自然な英語の使用場面に近づけていくことが大切である。日常生活の中で、同じことが2回繰り返されることはほとんどなく、1回だけ聞いて理解したり応じたりすることが自然である。そのことを教師が普段の授業から意識して指導することが大切である。

次に、生徒自身が分からないこと、曖昧なことをそのままにせず、聞き返す力を付けることが大切である。1回聞いて分からなければ“Could you repeat that?”と依頼したり、聞き取ることができなかった部分を質問したりするなど、主体的に学習に向かう力を重視した指導を行うことが大切である。

#### 【読むこと】

説明文などの大切な部分をとらえる際には、文章全体を通して読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何であるか等を判断することが大切である。指導に当たっては、文章全体を漫然と読ませるのではなく、繰り返し用いられている語（句）や問いかけなどの手掛かりを基にして、最も大切な語句や文を選ばせたり、各段落の働きを理解させたりすることが重要である。また、読んだことについて、自分の考えを述べる際には、単に内容を理解するだけでなく、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解していくことが大切である。指導に当たっては、読む目的に応じて要点を把握した上で、得られた複数の情報を取り出して総合的に判断し、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域間の統合的な言語活動を工夫することで、批判的な読み手を育てることが重要である。

#### 【書くこと】

言語材料を正しく用いて、伝えたい内容を読み手に伝わるように正確に文を書くことができるように指導することは大切である。その際、特定の言語材料のみを用いて文を書かせるだけでなく、コミュニケーションの目的や場面、状況のある言語活動において、様々な個別の知識を活用させて文を書かせること授業の中に位置づけるようにしたい。また、生徒の誤りについて生徒自身に考えさせるなどの指導を繰り返すことを通して、学習内容の理解が深まり、実際のコミュニケーションにおいて活用できる程度の技能を身に付けることにつながることを指導者として意識することが重要である。

与えられたテーマについてまとまりのある文章を書く際には、まず、テーマについての自分の考えを整理し、どのように書けば読み手に伝わるのかを考えながら書き表す必要がある。そのためには、テーマについて自分の考えをもつことができるようにすることや、伝えたいことを読み手に正しく伝えるために、語や文法事項等を正しく理解して書き表すことができるように指導することが必要である。

# 令和元年度全国学力・学習状況調査の結果分析（児童質問紙）

逗子市教育委員会

特徴的なことや課題と考えられること等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

○自分には、良いところがあると考えている児童の割合が、国や県と比較すると高く、支援教育の視点から異年齢交流や教員の肯定的な言葉かけが児童の自己肯定感を高めているためと考える。

○学校以外での勉強時間が3時間以上と回答した児童が国や県と比較し多く、さらに、家で自ら計画を立てて勉強している児童の割合も多かった。塾での学習だけでなく、家でも教科書などを用いて自学自習をする習慣が身につけていることが予想される。

○昨年度の調査同様、5年生までの授業で、自分の考えが上手く伝わるような工夫をした表現活動の機会があり、できていたと自己評価している児童が国や県と比較し多かったことから、言語活動を意図的、計画的に取り入れた授業づくりの成果であると考え。

●自分には良いところがあると捉えている児童の割合が高い一方で、人が困っているときは、進んで助けている児童の割合が国や県の割合より低い。

●地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている児童の割合が多いが、今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合が低い。

## 令和元年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

・縦割り活動など異年齢交流を継続的に取り入れることにより、グループ活動の企画や運営をしたり、上級生が下級生の面倒をみたりすることとおして、自己有用感、自己肯定感を高めていくとともに、他者に対する思いやりや助け合う心の育成を図っていく。

・学んだ知識や技能を活用して自分なりの考えをもつ学習やそれを判断して、進んで意見や考えを発信・交流するような学習の機会を多く持つ。

・児童同士による学び合い、教え合いをとおして、言葉を使って表現したり、コミュニケーションしたりする学習活動を国語科のみならず、すべての教科等で意図的・計画的に取り入れ、充実を図る。

・家庭学習を計画的に行っている児童の割合が増えていることから、定着を図るために、家庭学習における課題等が、児童にとってより取り組みやすいものとなるよう工夫していくことが求められる。家庭学習について個々の教員だけで取り組むのではなく、学校全体でそのあり方を見直していとともに、家庭とも連携を図りながら、内容や量についても児童の特性に合わせて柔軟に対応していく。

・学校支援地域本部事業を活用し、引き続き児童と地域住民とが関わる機会を設けるとともに、学校と地域が協働して児童の教育環境を充実させていくために両者が情報共有等話し合いをする機会を設定する。

# 令和元年度全国学力・学習状況調査の結果分析（生徒質問紙）

逗子市教育委員会

特徴的なことや課題と考えられること等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあると答えた生徒の割合が一定あることから、学習や行事等の活動において充実感、達成感を得ている生徒が多いと考える。

○外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う生徒の割合が、国や県と比較すると高く、広い視野を持ち、異文化を理解し、尊重する態度や心が養われている。

○ICTを活用する学習活動を行った割合が高く、さらに、授業でもっとICTを活用したいと思っている生徒の割合も国や県と比較すると高かった。ICTを活用した授業づくりに関する本市の教員の工夫の成果と考える。

●昼休みや放課後、学校が休みの日など学校の授業時間以外に行う読書の時間や図書館へ行く機会が、少なく、読書離れが懸念される。

●学校の規則を守ったり、人が困っているときに進んで助けたりする生徒の割合が、国や県と比較すると低く、人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒の割合も低い。

## 令和元年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

・異年齢交流をはじめ、自己理解、他者理解につながるような取組を今後も計画的に取り入れていくことで自己肯定感を育てていくとともに、人の役に立ちたいという気持ちを持つ生徒の意欲を上手に育てていくことが必要と考える。さらに支援教育の視点立った指導や、褒める指導とも絡めながらより効果的な活動となるよう教員個々が具体的な関わり方をイメージしながら意図的な取組としていく。

・これまでICTを活用した学習活動を行った割合が高く、さらにICTを活用したいと思っている生徒の割合が高いことから、今後計画的にICT機器の整備を進めていくとともに、ICTを活用した授業実践を学校間あるいは教員間で、授業や教材の開発や活用方法の工夫等の共有に努める。

・司書教諭や学校図書館指導員を中心に生徒が読書に親しみ、自ら進んで本とのかかわりをもつことができるような環境づくりを行うとともに、授業と関連させた読書活動を推進などの工夫を行っていく。

・規範意識は、生徒指導、教科指導、道徳教育、特別活動や人権教育などあらゆる教育活動の中で養われるものであるため、日常的な挨拶指導、服装指導、遅刻指導、集団活動に関する指導など、具体的な指導を通じて生徒がルールの重要性やそれを守ることの必要性を自覚できるよう取組を進めていく。